



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井 戸 知 事

火は消した？
いつも心に
きいてみて

第二十回兵庫県消防操法大会

代表隊決定！

兵庫県消防協会

去る八月八日、最後の地区大会となる西播磨地区消防操法大会が開催され、八月二十九日(日)に開催される、第二十回兵庫県消防操法大会の各地区の代表隊がすべて出揃いました。また、八月十日(火)には出場隊のキャプテン会議も開催され、出場順などが決定されました。出場隊及び出場順は表のとおりです。

第20回兵庫県消防操法大会地区代表一覧(出場順)

Table with 2 columns: 出場順序 (Order) and 小型ポンプの部 (Small Pump Section) / ポンプ車の部 (Pump Truck Section). Lists participating teams and their locations.

出場の決まった各消防団の皆様には、連日の猛暑の中、県大会での優勝、またポンプ車の部では全国大会への出場を目指して練習に励まれていること、思いが、厳しい練習の成果を遺憾なく発揮され、悔いのない

結果を残されますようお願いしております。
兵庫県消防協会として、出場隊の皆様が愛いなく操法に集中できますよう大会開催の準備に取り組んでまいります。

開催場所 兵庫県立 広域防災センターグラウンド
三木市志染町御坂一十九
日時 平成十六年八月二十九日(日)
午前九時三十分から十五時まで

第三十三回消防救助技術近畿地区指導会開催

近畿地区指導会開催

「第三十三回消防救助技術近畿地区指導会」が、平成十六年七月二十九日(木) 好天の下、兵庫県立広域防災センターで行われました。
兵庫県からの全国大会出場者は次のとおりです。

【陸上の部】

- ロープブリッジ渡過
一位 神戸市A (山下)
二位 養父市D (柳生)
三位 西宮市B (松本)
四位 揖南B (横田)
引揚救助
二位 神戸市A (山本・西川)

- 防古居・恩澤・広内
ロープブリッジ救出
一位 姫路市C (高濱・山口・永田・高井)

- 二位 姫路市B (中野・山名・西田・杉本)

- 一位 神戸市A (笹倉・豊福)
三位 明石市 (古林・松原)

- ほふく救出
三位 尼崎市C (太田・田伏・川畑)

- 障害突破
三位 加古川市A (原田・岸本・福原・竹中・阿部)



【水上の部】

- 複合検査
一位 尼崎市B (森岡)
三位 尼崎市A (秋田)
四位 神戸市B (阿部)
基本泳法
二位 尼崎市 (青石)
四位 神戸市A (高橋)
溺者搬送
一位 神戸市A (有田・野中)
二位 神戸市B (香西・岡部)
水中結索
一位 神戸市B (有田・阿部・小松)

溺者救助

- 三位 神戸市B (小松・前田・伊藤)
二位 神戸市 (三枝・宮村・吉田)
水中検査救助
二位 尼崎市 (高志武・秋田・森岡・泉)

- 人命救助
二位 神戸市 (三枝・宮村・吉田)

- 全国大会でも頑張ってください。
なお、全国大会は八月二十六日(木) 兵庫県立広域防災センターにて行われます。



兵庫県まとい会役員改選

平成十六年五月十九日(水)に舞子ピラにおいて、まとい会総会が開催され、任期満了に伴う役員改選が行われました。新役員の方々は次のとおりです。

名誉会長

溝口 信次

会長

城戸 正光

副会長

高井 達雄

阪神地区

阪上 貞雄

中播磨地区

坂田 義明

北播磨地区

松本 芳男

西播磨地区

永富 英明

但馬地区

渡辺 英正

丹波地区

北川 啓治郎

淡路地区

米山 昇

監事

神戸地区

石山 喜一

阪神地区

松本 光央

相生市消防団長 河合 勝



相生市消防団の歴史は、明治時代中頃の消防組に始まり、警防団を経て、昭和二十二年に消防団になりました。

その後、町村合併により、相生消防団、若狭野消防団、矢野消防団が統合され、現在の相生市消防団の誕生となりました。当初は二十六分団、九〇二名の団員数から始まり、機構改革

消防団今昔

33

を重ね、現在は二十二分団、五二〇名の団員になっています。相生市は瀬戸内気候のため、山林火災が多く発生し、市内全分団が出勤して、三日三晩山中で必死に防衛にあたったこともあり、今でも山肌がムキ出しとなり大木が無くなっており、その近くを通るたびに、その当時は想い出させます。最近の山林火災は、県の防災ヘリに助けられ、消火活動がやりやすくなっていますが、山火事は「ゼロ」にしたいものです。また、昭和四十六年、四十九年、五十一年とたてつづけに襲って来た集中豪雨による水害、土砂災害も忘れることの出来ない消防団の活動です。この時は、全市民的に被害を受



昭和46.7.18 集中豪雨により高取峠でバス等が土砂崩れに巻き込まれ転落

けていたため、各分団は地域の河川や溜池、急傾斜地の見回り、災害対応に追われ、地域住民と一体となって災害に立ち向かってきたことが、昨日のこのように想い出されます。昨今、市内の人口減少とともに、団員の確保が非常に困難な状況にあり、団員の高齢化も目立つようになっています。私たち消防人は、昔から受け継がれている「自分たちのまちは自分たちで守る」という、郷土愛護精神を、これからの若い世代に引き



三田市消防団第二分団長 七條 信夫

三田市消防団は、団長以下七分団、七〇四名で構成されています。我が第二分団は七十五名で六班に構成され、自分達の地域は自分達で守ることを基本理念にがんばっております。しかし近年の少子高齢化に伴い団活動及び団員確保等について近い将来における分団運営に大変危惧しているところです。

さて、管轄地域の中心に当たる三輪地域の防災を七十六年間支えた火の見やぐらがこの地域住民の方々に惜しまれる中、

撤去されることになりました。消防の先輩から伝え聞くところによると、大正二年に大阪の河野製作所より手押ポンプを六六〇円で購入、消防組員詰所を六六〇円で建設されたそうです。昭和二年四月より従来の私設消防組が公設認可を受け、三輪町消防組に改組され八部三二〇名をもって、設立されたそうです。当時の手当については組頭年間二〇〇円、副組頭一〇〇円、小頭三三〇円、消防手一円であったようです。その後昭和三年四月に大阪森田製作所より二千円で郡内一の最新鋭の自動消防ポンプ(ガソリン四気筒十八馬力)を

購入、同年十二月に鉄骨製の警鐘台十五mを新設、先使用起来していた手押ポンプは、同六年一月消防教育のために三輪小学校に移設され高等科の学生達で、少年消防隊を組織されたと記録されております。消防組の方々

が地域防災のため尽力され消防団の礎を築かれたことを知り、消防の歴史の深さ、責任の重さをひしひしと感じております。今後もこの伝統を受け継いで、地域の皆様に信頼される消防団を日々努力し今後共続けてまいります。



本年撤去された警鐘台

地区通信

「地域の安全を守るために！」

大河内町消防団

大河内町は、兵庫県のはほぼ中央に位置し山林や高原、河川、農地から形成される変化に富む豊かな自然に囲まれ、町の北西部には、砥峰高原、峰山高原、太田池が広がる約一、〇〇〇haの丘陵地が広がっています。周辺の千町ヶ峰、晴晴山などの山稜からは瀬戸内海が遠望でき、その景観の雄大さはすばらしいものです。また初夏の砥峰高原は湿原にノハナショウブが鮮やかな色彩を映し、秋には一面ススキの草原が広がります。峰山高原は、標高一、〇七七mの晴晴山を中心とする関西でも第一級の高原です。太田池は、関西電力大河内発電所の上部調整池として拡張整備され、近代技術と自然がマッチしたすばらしい景観をかもしだすなど、大河内高原は古くから自然の宝庫として広く知られてきました。大河内町消防団は、昭和三十年に寺前村と長谷村が合併して大河内町となったのと同時に大河内町消防団として発足し、現在に至っています。

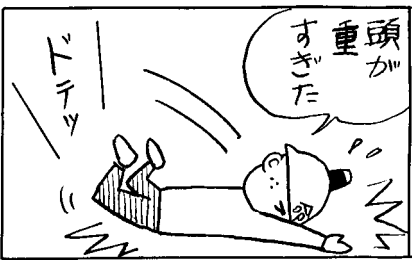
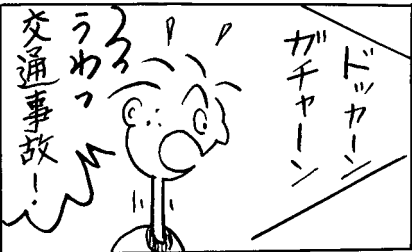
さらに昨年から、救急車到着までの応急手当、とくに救命に係わる心肺蘇生法を習得するために中播消防署の救急救命士の指導により三時間の普通救命講習を受講しています。講習会では、訓練人形を使って意識や呼吸の確認、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージ等の方法を習得し、自分の周りで倒れた人は、自分達が必ず助けるとの自信と自覚を持つことができました。最後に、これら訓練を通じて「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し、より一層消防・防災活動に励んでいきたいと思っております。

組織は、団長、副団長三名、正副分団長三十名を含む総勢二九〇名で編成され、消防ポンプ自動車十台、小型動力ポンプ付積載車四台の計十四台を各地域に配置し、約五、三〇〇人の町民の生命と財産を守るため日夜訓練、啓発活動に努めています。大規模な訓練としては、平成七年に発生した阪神・淡路

大震災を教訓にし、平成十二年十一月に大河内町防災総合訓練を実施しました。この中で消防団は、本団幹部が災害対策本部を設置し、被害状況の把握、避難勧告及び情報収集伝達訓練を行い、団員は避難広報及び避難誘導訓練を実施後、水防工法訓練(積土の工法・月の輪工法)を実施し、最後に一斉放水訓練を行いました。このような大災害を想定した訓練を定期的に行い、実際に災害が発生した場合に迅速かつ的確に対応できるよう防災体制の確立と町民の防災意識の高揚に努めています。また、春と秋の火災予防運動期間中は、各分団の全消防自動車、町内を一週する防火パレードを実施し、防火啓発活動に努めている他、毎年六月には消防操法大会を開催し、消火技術を競い合い、



須磨浦ひろくの 急げ"消ちゃん31" PART



「熱心でタフな団長さん」

緑町消防団

田中 茂廣 団長

緑町は淡路島南部のほぼ中央に位置し、海に面したところがなく、田んぼや山のみどりが豊かな人口六、三三四人(平成十六年六月末現在)、面積二七・八九㌫の小さなまちです。

田中団長は、昭和五十五年に入団、平成十三年から副団長、平成十五年から団長に就任され、火災その他の災害現場や訓練において消防団の指揮をとっておられます。趣味は、野球・ソフトボールで五十歳を過ぎた今なおヒットを打ち、一つでも前に

貪欲に進塁し、常にチームが勝つことを目指し地区対抗などの試合に出場しておられます。また、以前に少年野球のコーチをしておられたため、団員のなかには小学生のときも指導していただいたものも多く、それらの団員からは、しげさんの愛称で親しまれております。他には、同じ球技?のパ〇〇〇も趣味の一つで、多く出るように折るのですが、団長としてそれ以上に常に折ることは災害のない町の安寧であり、不断の点検や訓



練はもとより、災害による被害が起こる前に防ぐ予防消防の重要性について事あるごと団員に呼び掛ける熱心でタフな団長さんであります。



「温厚誠実な団長さん」

上郡町消防団

松本 隆雄 団長

上郡町は兵庫県の南西部に位置し、すぐお隣は岡山県となっております。町の中央を清流千種川が流れ、豊かな自然に恵まれています。人口一万八千人余で田園と親しみのもてる山々で美しい景観が構成されています。

松本団長は、昭和四十六年四月に団員を拝命し、昨年六月に団長に就任されました。以来、三十有余年に渡り、奉仕精神で消防団活動に当たり、特に団員の資質向上に努力しておられます。

温厚な人柄ですが、有事の際の責任感強く、長年培われてきた豊富な経験を生かしてその防ぎよに努められ、その結果、町幹部の信頼も厚く、また全団員の信望も集めておられます。

特に、最近消防団員の減少に頭を痛められており、啓発、勧誘に奔走し、団員数の確保に力を注いでおられます。

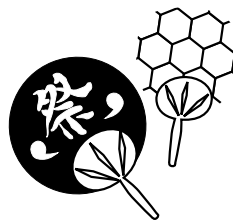
このような団長さんですが、家庭では良き夫、良き父として奥様や子供さんを大切にされ、大変うらやましい家庭を築いて

わがまちの団長さん

117

おられます。

団長さんには今後とも体にごをつけていただき、上郡町消防団の発展のために、なお一層の活躍が期待されています。



地区通信

淡路地区 消防操法大会

淡路地区消防協議会

平成十六年七月十八日洲本市木戸の城戸アグリ公園において、淡路地区消防操法大会が多数の来賓のご臨席をいただき盛大に開催されました。

この日は例年より一週間ほど早い梅雨明けの日曜日で、曇り空ではありましたが、絶好の大会日和となりました。開会式では、米山昇大会会長(淡路地区消防協議会長)の挨拶に続き、来賓の方々から祝辞をいただき、谷泰秀選手(地元洲本市消防団千草分団)の力強い選手宣誓が行われました。

淡路地区では団員の消防精神の高揚と迅速かつ的確な消防技術の向上を目的とし、二年に一度開催しており、小型ポンプの部及びポンプ自動車部の二部門において競技を行っています。優勝は淡路地区の代表として県大会に出場することになっています。

勝ち抜いて出場を果たした洲本市消防団千草分団、津名郡からは那覇選抜の淡路町消防団特設分団、三原郡からは三原大会を勝ち抜いて出場の南淡町消防団賀集第一分団第一の三隊の出場です。ポンプ自動車の部には洲本市からは同じく洲本市消防団千草分団、津名郡からは那覇選抜の五色町消防団都志分団、三原郡から郡大会を勝ち抜いた南淡町消防団灘第二分団特設部の三隊の出場です。

淡路地区は、操法のレベルが非常に高く、平成十四年の県大会においてポンプ自動車部の部で南淡町消防団灘分団が優勝を収めています。

競技は小型ポンプの部、ポンプ自動車の部の順で行われ各隊とも連日連夜の訓練の成果を十二分に発揮し、鍛え抜かれた操法技術を披露し、その統率のとれた動きに観客は魅了されました。



優勝おめでとう



一糸乱れぬチームワーク



迅速、的確な放水

- こうして大会は無事終了しました。結果は次のとおりです。
- ・小型ポンプの部
 - 優勝 洲本市消防団 千草分団
 - 準優勝 南淡町消防団 賀集第一分団第一
 - 三位 淡路町消防団 特設分団
 - ・ポンプ自動車の部
 - 優勝 南淡町消防団 灘第二分団特設部
 - 準優勝 洲本市消防団 千草分団
 - 三位 五色町消防団 都志分団

北から南から

「平成十六年度氷上郡 消防大会」を開催

氷上郡支部

平成十六年六月六日(日)柏原町の「丹波の森公園」グラウンドにおいて、「平成十六年度氷上郡消防大会」が開催されました。

当日は氷上郡六町(柏原町、山南町、氷上町、青垣町、市島町、春日町)の消防団員二、八四七名の内、約八二〇名及び消防車両二十四台が参加いたしました。

早朝からご来賓多数のご臨席のもと分列行進により入場し、第一部の大会式典では、全国の消防殉職人に全員で黙祷を捧げた後、池田大会長の式辞、続いて

部隊観閲を行いました。また、ご来賓の方々からも力強いご祝辞を頂きました。

第二部の消防操法大会では、「ポンプ車」及び「小型ポンプ」の二部門に各町大会を勝ち抜いた代表隊が出場し日頃の訓練成果を披露しました。

結果は次のとおりです。
ポンプ車の部
優勝 春日町消防団
準優勝 青垣町消防団

小型ポンプの部
優勝 柏原町消防団
準優勝 第二分団第一分団

優 勝 春日町消防団
準優勝 青垣町消防団
第二分団第一分団



第一部 大会式典 部隊観閲の様子



第二部 消防操法大会の様子

第四分団第二部
準優勝 春日町消防団
第二分団第三部

なお、小型ポンプの部で優勝した柏原町消防団第四分団第二部は丹波地区の代表として、第二十回兵庫県消防操法大会小型ポンプの部へ出場します。ご健闘をお祈りいたします。

最後に、十一月一日氷上郡六町の合併による丹波市発足に伴い消防団も統合され、丹波市消防団として新しい時代を迎えます。

今後の消防防災体制は、団員の確保はもちろんのこと、常備消防と消防団が連携した危機管理のもとに充実強化を図っていくかなければなりません。

また、諸先輩方が築き上げられた消防の伝統を引き継ぎ、これまで以上に地域住民の安全と郷土の繁栄のため邁進したいと思っております。

編集後記

夏の夜空を彩る花火に魅了されるころ、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、第二十回兵庫県消防操法大会出場チーム、改選されたまとい会の役員の方々を紹介しております。また、消防団今昔には、相生市消防団長河合勝さん、三田市消防団第二分団長七條信夫さんよりご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

台風も次々と上陸し、また各地で局地的な豪雨などの被害が伝えられています。災害への備えを十分におきましょう。



【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代！老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・操法最適ホース：コンベココスモEJ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドFジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車（標準型・全自動型）
- ・消防ポンプ自動車（モリタ）
- ・消防用資機材全般



総合防災コンサルタント
有限会社 西垣消防器具製作所

〒669-5213 兵庫県朝来郡和田山町玉置461
TEL: (0796) 72-3131
FAX: (0796) 72-3132
E-mail: fp-nsgk@woc.2net



美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する モリタです。

株式会社 モリタ

本社 〒544-0003大阪府生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6756)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

- | | |
|---------------|---------------|
| 屈折梯子付消防ポンプ自動車 | 消防救助工作車 |
| 化学消防ポンプ自動車 | 小型ポンプ積載車 |
| 水槽付消防ポンプ自動車 | シバウラ小型動力消防ポンプ |
| 普通型消防ポンプ自動車 | 各種消防用品 |
| 高発泡機付消防自動車 | 消防用ホース |



株式会社 吉谷機械製作所

本社・工場 鳥取市古海356の1
TEL(0857)23-2211(代)
FAX(0857)27-1766

世界へ羽ばたく！

GMの消防自動車

大槻ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部
〒623-0021
京都府綾部市本町7丁目67-2
TEL(0773)42-0681(代)
FAX(0773)42-9229

